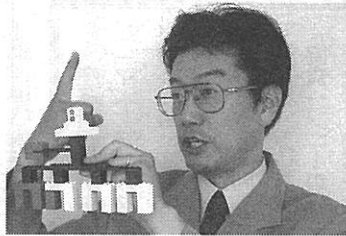


# 日・米・韓の研究者が現況報告

日本リスクマネジメント学会  
日本リスク・プロフェショナル学会

## 国際セミナーで

日本リスクマネジメント学会は日本リスク・プロフェショナル学会と合同で、6月5日、大阪市立大学文化交流センターで関西部会・合同研究会(午前)と国際リスク・マネジメントセミナー(午後)を開催した。関西部会・合同研究会の模様は、前号(6月23日付8面)に掲載。



午後部の韓米日・国際リスク・マネジメント・セミナーは、亀井利明氏(関西大学名誉教授・日本リスク・プロフェショナル学会理事長)が英語による開会の辞を行い、リスクマネジ

メント研究における韓日を中心とする国際交流の意義について述べた。続いて、韓米国総領事館である徐聖錫氏(釜山経商大学助教)が日本語による基調報告「中国インターネット産業の現状とリスク」を行い、中国の急成長産業であるゲーム産業をめぐるリスクについて説明した。次に、日本側の総合司会である今回のセミナーの進行役を英語で務めた亀井克之氏(関西大学・総合情報学部教授)が、英語による基調報告「Reconsideratio

n about Placement of Risk Management Function」を行った写真。近年、急速に進んでいる企業内でのリスクマネジメントの組織体制(Structure)について、組織図のプロック模型を用いたプレゼンテーションにより、伝統的な理論から現場における最新の傾向までを簡潔に解説。リスクマネジメント部門が組織内にどのように位置付けられようと、①コミュニケーション機能と調整機能が重要であること②張りめぐらせたネットワークを通じて社内各部門で発生するリスクに常に敏感であること③組織全体としてのリスク感性向上に貢献すべきこと一を指摘した。

韓米側からの研究報告は「Interest Rate Risk Management for Bancassurance」の報告で、利子率の観点からバンカアシユランスを分析。李光峰氏(仁済大教授)は、生保会社の準備金の評価に関する計量分析「Risk Diversifications in Reser

ve Valuation」で報告した。日本側からは2件の研究報告があった。まず、姜徳洙氏(専修大学大学院・博士後期課程)が、韓国語で要約した後、日本語で「戦略リスクと経営者の意思決定」の報告を行い、韓日企業のCEOの事例に基づいて、リスクに直面した経営者の戦略的意思決定のあり方について分析した。奈良由美子氏(放送大学助教)は、日米アンケー

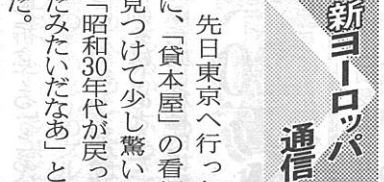
ト調査の膨大なデータに基づいた分析である「Everyday Life Risks: Structural Reform and Everyday Life Dynamics」報告の中で、日米におけるリスク認知の相違を示し、米国では主体的にリスクに対処しようという傾向が見られるのに対し、日本では反対傾向にあり相互信頼やリスクコミュニケーションの整備が必要であると指摘した。

セミナー終了後、韓国側研究者から、韓日リスクマネジメント研究交流のパイオニアとしての亀井利明氏の永年の功績をたたえ、花束などの贈呈が行われ、最後に閉会の辞を上田和勇氏(専修大教授・日本リスクマネジメント学会常務理事)が英語で行った。

書が良書を駆逐する状況にあるが、本書は正統派のパイオニア理論として、良書の地位を守り、今後も社会に貢献していきたい」と述べた。

## 損保ジャパン記念財団 福祉団体 助成先を決定

財団法人損保ジャパン記念財団(平野浩志理事長)は、6月3日に選考委員会を開催し、平成16年度社会福祉助成金として、全国の70の障害者・高齢者福祉団体に対し、特定非営利活動助成を推進するために設立した。このNPO法人設立資金助成は、わが国の民間福祉活動を進めるために設立したもので、特定非営利活動促進法の成立により新設された、設立が容易なNPO法人の設立を支援することを目的として平成11年度から今日まで毎年実施しており、本年度は27回目。同財団の社会福祉助成は、昭和52年度の財団創設から今日まで毎年実施して



汚れないようにパラフィンを紙が掛けてある。1冊の貸し出し料は、50円だったか、100円だったか。借りる時には身分証明書を見せるどころか、名前や住所を書く必要もなかった。今に比べると、おらかな時代だったのである。戦後、貸本業界が栄えた時期があった。貸本屋のためのマンダラもいくつかあった。怪

